

2023 年度 第 2 回 施設・環境・設備安全セミナー 参加者からの情報提供について

2023年 10 月
日本医療機能評価機構
認定病院患者安全推進協議会
施設・環境・設備安全部会

2023 年 9 月 6 日(水)2023 年度第2回施設セミナー参加者からセミナー当日、「小児用サークルベッド内転倒によるベッド柵への衝突」の事例に対して、自院での有効だった対応策事例についてコメントをいただき、セミナー終了後に下記のとおり情報提供をいただきました。

【セミナー当日投稿コメント】

- ラバー製で、クッション性のあるカバーを特注しました。
- ベッド柵に数か所マジックテープでカバーを取り付けて、ベッド柵の上げ下げもできます。

【情報提供内容】

2016 年小児病棟に着任した際、血小板減少性疾患の患者の外傷予防にキルト状の薄いベッドマットをベッド柵にかけて予防としていました。しかし、やはりすぐにずり落ち、期待の皮下出血などの予防はできず、注意喚起ツールの状態でした。

ベッド柵が上げ下げできること、耐水性があること、アルコール製剤での拭き取りができることを条件に、当時二種類の小児用ベッドがありましたので、一組ずつ特注で作成していただきました。二組で約 9 万円でした。試作が足りず上げ下げで引っかかりはありますが、それでもベッドマットよりは外傷予防ができていると思います。また、条件に可愛らしさを入れていないので、なんとも味気ないもので、セミナーを受講して“可愛いもの”と言う意見を聞いて、少し後悔しました。現在も小児病棟では外傷リスクの患者に使用しています。一緒にセミナーを視聴した小児病棟の現管理者が「10 年使ったら、もう一回可愛くて、使いやすいものを発注したい」と笑っていました。

2016 年当時は A 社と B 社の 2 種類のベッドでしたが、現在は全て B 社のものになっています。そして B 社製用のカバーは中のクッションがよれて修理に出していました。よって、B 社製のベッドに A 社製用に作ったもので運用しているので若干隙間があります。また、縫製のほつれもありました。10 年使うのは難しそうでした。([写真]参照)

頭のほうは枕や生活用品が、足のほうは使わない布団が重ねてあるのでぶつかる可能性は低いとみて、観察する空間としてカバーは作っていません。

【写真】



